

目次／テーマ展「ラグビーといわて」表紙／いわて文化ノート「呼び起こす～文献資料に眠る盛岡藩の囲碁～」 p.2-3 / 展覧会案内 テーマ展「ラグビーといわて」 p.4-5 / 事業報告「第12回 博物館まつり&ミュージアムコンサート」/ 事業報告「博物館で学ぶ岩手の歴史講座」 p.6 / 事業報告「第86回地質観察会 一戸町根反川周辺の珪化木をみる」/ 資料紹介「岩手県立博物館デジタルアーカイブから」 p.7 / インフォメーション p.8

テーマ展

「ラグビーといわて」

会期：令和6年3月23日(土)～5月19日(日)

場所：2階 特別展示室



岩手県のラグビーの歴史と今について紹介します

■いわて文化ノート

呼び起こす～文献資料に眠る盛岡藩の囲碁～

岩手県立博物館 専門学芸員 村田 雄哉

■はじめに

囲碁は将棋と並び、古代より日本に伝わり、以来廃れることなく人々に愛され続けている盤上遊戯です。いずれも中央の貴族や僧侶を中心に嗜まれていましたが、徐々に地方の隅々へと、武家や豪商へ、豪農や町人へ、そして大衆へと時を経て広まり、現在に至ります。

岩手県内においては、平泉町の柳之御所遺跡で遊戯具用途とも推定される碁石の出土があるものの、古代から中世にかけての囲碁関連資料は皆無に等しい状況です。近世以降については、棋譜や棋書、諸氏の日記といった文字資料、書画、錦絵などの多様な資料が残されており、それぞれの時代において人々が囲碁に親しむ様相をうかがい知ることができます。

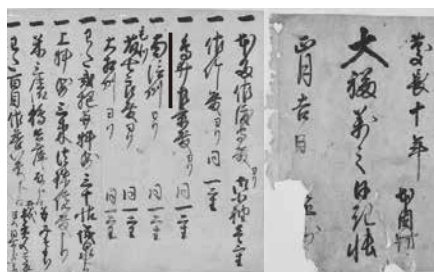
本稿では、その中から盛岡藩の囲碁に関する文献資料を取り上げます。江戸時代の囲碁事情に触れつつ、各所に眠る文字資料から垣間見ることができる盛岡藩や藩士の囲碁の姿を紹介します。

■本因坊算砂へ 贈答の記録

本因坊算砂は、現代ではしばしば、“近世囲碁史の開祖”と呼ばれる人物です。安土桃山時代の終わりから江戸時代の初めにかけて、囲碁や将棋の名手として抜きん出た棋力の高さを誇った棋士です。もともとは日蓮宗の僧侶でしたが、後に隠居して本因坊算砂を名乗り、碁界と将棋界の頭役として家康に仕えました。

算砂に贈られた贈答品や算砂が贈った贈答品等を記した、慶長 10 (1605) 年の帳簿、『本因坊算砂大福帳』には、御年賀で算砂が諸大名から受領した贈答品をまとめた一部分があります。なぜ、大名は算砂に贈答儀礼を尽くすのでしょうか。その背景には、囲碁の実力はもちろんですが、囲碁好きの徳川家康の知遇

を受けていたことがあります。算砂は、家康に乞われて囲碁を指南していたほか、家康の斡旋により、後陽成天皇の御前で腕を披露しました。江戸幕府が誕生して間もないこの時節、諸大名は、領地支配を安堵された事への感謝や幕府への恭順の意を示すためにも、家康と関係の近い算砂との良好な関係づくりが必要だったのかもしれませんが。



『本因坊算砂大福帳』（東京大学史料編纂所蔵）より一部改変

慶長十年	大福萬之日記帳	本因坊
正月吉日	（紙継目）	算砂
本多佐渡守殿ヨリ	御小袖一重	
佐竹殿ヨリ	同	
鳥井左京殿ヨリ	同	
南信州ヨリ	同	
藤七郎殿ヨリ	同	
大相州ヨリ	同	
（後略）		

翻刻

ここに、盛岡藩主の贈答の記録が記されていました。傍線部“南信州”は、藩主の南部利直をさします。利直もまた、他の大名と同様、贈り物を通して算砂と良好な関係を構築していたようです。

■盛岡藩の碁会と対局記録（棋譜）

江戸時代の初期には、家元制度が確立し、本因坊算砂を始祖とする本因坊家や井上家・安井家・林家の家元四家が誕生します。家元は、道場で町人に指南したり、公家や大名屋敷、寺社、豪商の碁会

などに出向いて指南したり腕を披露したりしました。

旧盛岡藩士によって明治時代にまとめられたと考えられる写本『連碁并秀和算知打碁』には、文久2年（1862）年2月20日に、江戸の盛岡藩下屋敷富士見御殿において本因坊跡目の秀策と向井将曹が三子の置き石のハンデを付けて対局し、秀策が中押勝を収めた際の棋譜が残されています。



『連碁并秀和算知打碁』（当館蔵）

当時の大名による碁会の形式は、当代の家元の名手を招いて開くのが通例なので、こちらは盛岡藩が開いた碁会の際の棋譜だと思われます。大名による碁会の目的には、純粋に碁を楽しみ棋力の向上に励む目的のほか、碁への理解や教養の高さを示す目的、社交・情報交換の場としての目的などがありました。果たしてこちらの碁会は、どのような目的に比重のおかれた碁会であったのでしょうか。また、誰の主催で（当代藩主の南部利剛でしょうか、あるいは隠居していた南部利義でしょうか、はたまた別の御仁でしょうか）、誰が臨席していたのでしょうか。碁会の記録や述懐した文献の発見には至っておらず詳細は掴めませんが、興味の尽きないところです。

なお、こちらの棋譜が一部不完全ではありますが、当時の盛岡藩士の棋力水準を推し測ることができる貴重な資料です。

■「奥州盛岡」の有段者

寛文2(1662)年、碁将棋衆は幕府の寺社奉行の配下と定められ、後に“御碁所”が置かれます。御碁所は家元四家から選出される定数1名の役職です。碁界の頭役として御碁基などの勤めや免状の発行、段位を持つ全国の棋士の統括などを行いました。この後、囲碁の裾野は階層を超えて広まり、各地方の隅々へと広まり、江戸時代の後期になると囲碁は全国的に隆盛期を迎えます。

安政2(1855)年の版本『碁基段附人名録』には、北は松前から南は薩州まで、家元四家の門人計470余名の有段



『碁基段附人名録』(個人蔵) ※下段は拡大

者の出身と名前が記されています。

ここに「奥州盛岡」出身者として、安井家三段の項に、南部土佐、初段の項に向井大和、本堂時治、藤倉惣平の計4名の藩士名が記されていました。南部土佐と向井大和は兄弟です。また、向井大和は別名“将曹”で、前段で紹介した、江戸の盛岡藩下屋敷の富士見御殿にて秀策と対局した藩士です。

■盛岡藩士の間での碁基の流行

江戸時代の後期になると、盛岡藩内では碁基が流行します。嘉永四年頃の作成と考えられている『盛岡藩士碁基番付表』

には、東西あわせて150余名の盛岡藩士の名前が記されています。



『盛岡藩士碁基番付表』(新渡戸記念館蔵)

前段で挙げた有段者4名のほか、後段の新渡戸傳の日記に登場する碁会参加者の名前もみられます。

■盛岡藩士 新渡戸傳の碁基

新渡戸傳と耳にすれば、誰もが三本木原開拓の祖、あるいは新渡戸稲造の祖父、と思ひ浮かべられるかと思いますが、実は、新渡戸傳は碁基を嗜んだ藩士の一人でもありました。傳がまとめた『太素日記』は、三本木原開拓の状況や当時の盛岡藩の藩内情勢・領内情勢、国情、傳の考えや思いなどを知ることができる貴重資料ですが、こちらには、盛岡藩士の碁基事情や傳が碁基を通して交歓した姿、当時の地



『太素日記』(新渡戸記念館蔵)

方への碁基の広まりを推察できる貴重な記述もみられます。

以下、紙面の都合、当該箇所について大胆な概略になりますが、いくつかご紹介いたします。

※傳の年齢は原本に合わせた数え年です。

- ① 太素二十九歳より三十五歳迄田名部通川内住居の条より(文政四年~十年)

傳29歳、父が藩義への反対を扇動したと誤解されて処分を受け、川内(現青森県むつ市川内町)へ移住して間もない折、当地の泉龍寺の碁会に呼ばれてお世話になった。

- ② 太素五十六歳の条より(嘉永元年)

父の誤解が解けて、藩士として復帰していた傳、津軽領三厩への外国人上陸事件に係る探索の命を受け、身なりを変えて八戸鮫裏清水屋次郎兵衛を名乗り、同地まで潜入。その際、城下町の止宿で同宿の医師に声をかけ、碁基の二番勝負をお願いして対局。敗れたので酒を出して、歓談した。

- ③ 太素五十九才の条より(嘉永四年)

近年碁基が藩内で流行し、南部土佐殿ほかの屋敷で碁会が日常的に開かれており、そこには、出石源左衛門、本堂寛治(時治)、藤倉惣平、上斗米定蔵、野澤源五郎、福田末治、新渡戸傳、大矢勇太、上山繁記、石原汀ほかが入りしている。

■おわりに

以上、盛岡藩や藩士の碁基の記録をご覧いただきましたが、これらは盛岡藩における碁基の姿の一部分にすぎません。今後も、盤上遊戯に関わる随時報告される遊戯史の研究成果を踏まえつつ、文献資料を中心に新たな関連資料を探し出して検討し、全体像に迫っていきたいと思います。

■展覧会案内

ラグビーといわて

会期：令和6年3月23日(土)～5月19日(日)

はじめに

ラグビーフットボール(以下、ラグビーと略称)は、楕円形のボールを足で蹴るか手に持って走るかして前に運んで相手陣内のゴールエリアに持ち込むか、ボールを蹴って、2本のゴールポストにわたされたクロスバーの上に通して得た点を競うスポーツです。

本展では、ラグビーの歴史、岩手県におけるラグビーの歩み、現在岩手県で行われているラグビーに関わる取り組みを紹介いたします。本展が、本県とラグビーとの深い関わりについて知っていただく機会になれば幸いです。

序章 ラグビーの誕生と日本への伝播

ラグビーの起源には諸説ありますが、19世紀、イングランドのパブリックスクールの一つ、ラグビー校で行われていたフットボールというスポーツのルールが原型になったという点では一致しています。このスポーツが英国、ヨーロッパ各国、次いで世界中に伝わった背景として、産業革命により生まれた新たな市民層の成長、「パクス・ブリタニカ(英国の平和)」と呼ばれる英国の植民地支配など、19世紀という時代の特性があります。日本でも開国後の1866年(慶応2)、居留地が置かれた横浜で、英国人によってはじめてプレーされました。

初の日本人によるラグビーチームは、1899年(明治32)に慶應義塾で結成されました。その後近畿、次いで関東の学校でラグビーチームが作られて徐々に組織化され、昭和



日本にラグビーを伝えたクラーク博士【慶應義塾蹴球部蔵】

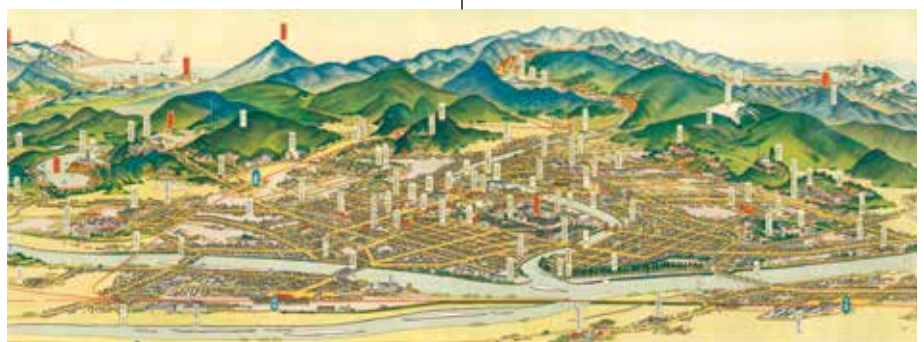
初期までには広い人気を獲得します。本展では、横浜カントリー&アスレティッククラブ(YC & AC)や慶應義塾を中心に、日本でのラグビーの始まりについて紹介します。



慶應義塾蹴球部グラウンドにある、日本ラグビー創始の地石碑

第一章 岩手のラグビーのはじまり

岩手県でラグビーが始まったのは1927年(昭和2)3月1日のことです。前年に創設された旧制岩手中学校(現岩手中・高等学校)に招かれた体育教師広嶋英雄氏により、当初は学校行事の一つとして導入されます。ほどなくして岩手医学専門学校(現岩手医科大学)、盛岡中学校(現盛岡第一高等学校)でも導入され、各校の対抗戦も行われるようになります。母国イングランドでのラグビーの広まりや、近代日本の他の球技と同様に、岩手のラグビーは教育現場で、青少年教育の手段として導入されたのです。



三田義正らによる盛岡市街開発が描かれた、「盛岡市鳥瞰図」(部分)

本展では、戦前/戦後の岩手中学校/岩手中・高等学校の資料をはじめ、岩手中学校創立者である三田義正氏の建学の志、昭和初期に三田氏らにより進められた盛岡市菜園・大沢川原地区の開発事業についても紹介します。

■ラグビー豆知識

「ラグビー」という競技名の由来は、前述の通り、イングランドのパブリックスクールの校名に由来します。他にもラグビーでは、色々な場面で独特の用語が使われます。なぜ「トライ」というのか? ボールはなぜ楕円形なのか? 日本代表の「キャップ」とは? 本展では展示の中で、これらの豆知識を紹介します。

第二章 栄光の記録

戦後、県内の各高校や大学にラグビー部が作られ、そこを巣立ったラグーマンたちによって、企業にも多くのラグビーチームが作られます。その筆頭が、「北の鉄人」新日本製鐵釜石製鐵所ラグビー部です。戦後、富士製鐵としてスタートした同製鐵所では、1959年(昭和34)にラグビー同好会が発足します。発足時のメンバー21名のうち、県内高等学校出身者は11名。それから同部は、主に県内、もしくは東北・北海道から招いた高卒の選手を中心に強化を進め、1965年(昭和40)には国民体

育大会で初優勝を果たすなど、着々と実績を積み重ねます。そして1977年(昭和52)1月、ついにラグビー日本選手権で優勝、「ラグビー日本一」の称号を得るのです。1979年(昭和54)から1985年(昭和60)までの日本選手権連覇、いわゆる「V7」は、中心選手の多くを高卒選手から鍛え上げて成し遂げた点を含め、日本ラグビー史における不朽の記録となっています。

加えて、1960年代から1980年代前半にかけて、盛岡工業高等学校の全国高等学校ラグビー選手権(花園)での2度の優勝や国体優勝、岩手大学ラグビー部の全国大学ラグビー大会/全国地区対抗大学ラグビー大会での3度の優勝など、岩手県のラグビーは黄金期を迎えました。本展では、日本製鉄北日本製鉄所釜石地区所蔵の新日鐵釜石ラグビー部関連資料を中心に、輝かしい記録を打ち立てた当時のラグーマンたちが実際に手にした、様々な資料を展示します。



新日鐵釜石ラグビー部の盾
【日本製鉄北日本製鉄所釜石地区蔵】

■桜庭吉彦氏関連資料

岩手県のラグビーを代表する選手の一人が、桜庭吉彦氏です。桜庭氏は秋田県出身で、1985年(昭和60)に新日鐵釜石ラグビー部に入部します。以後同部、釜石シーウェイブス(現日本製鉄釜石シーウェイブス、2001年(平成14)に新日鐵釜石ラグビー部を引き継ぐ形で結成されたクラブチーム。以後シーウェイブスと略称)で選手として、シーウェイブスでは監督、ゼネラルマネージャー

としても活躍、現在釜石、岩手のラグビーをけん引する存在です。ラグビー日本代表でも43キャップを獲得し、ラグビーワールドカップ(以後W杯と略称)にも、1987(昭和62)年の第1回大会をはじめ、3度の出場を果たしています。本展では、桜庭氏のラグビージャージ、代表選で獲得したキャップなどを展示するほか、4月14日(日)には、桜庭氏による日曜講座を開催します。



日本代表キャップ【桜庭吉彦氏蔵】

第三章 震災・復興とラグビー

2011年(平成23)3月11日、東日本大震災津波が東北沿岸を襲い、岩手県沿岸の市町村は甚大な被害を受けました。各地のラグビー場も仮設住宅や支援車両の駐車場となり、ラグビーをプレーすることもままならない状況が続きます。しかしこの時、国内外のラグビー関係者から、岩手のラグビー界に対して厚い支援が届けられました。また、市街地の広範囲が津波で被災した釜石市では、シーウェイブスの選手たちが、復興作業のボランティアに従事します。その中には外国出身で、震災後も帰国せず釜石に留まり続けた選手の姿もありました。

そうした中で、2019年W杯の釜石での試合開催が模索されるようになります。その動きは広まっていき、最終的には2015年(平成27)、国内12箇所の試合会場のうちの一つとして釜石市が選ばれます。唯一の震災被災地の会場から支援への感謝を伝えるために多くの方

が尽力し、2019年(令和元)の試合開催にこぎつけた(1試合は台風の影響で中止)ことは、記憶に新しいです。

本展では、釜石市所蔵のW杯関連資料や、シーウェイブスが受け取った寄せ書きなど、震災からW杯までの岩手のラグビーに関わる資料を展示します。



W杯参加国のピンバッジ【釜石市蔵】

■ラグビーを支える「裏方」たち

ラグビーに限らずどのスポーツも、選手だけでは行うことができません。本展では、選手以外の立場でラグビーに関わる人たちを紹介します。

第四章 岩手のラグビーのいま

岩手県内には、53のラグビーチームがあり、県内33市町村のうち12市町村に協会があり、小学生から大人まで、多くの方がラグビーに関わっています。本章では、国内最高峰リーグであるリーグワンに参戦している日本製鉄釜石シーウェイブスの試合日程や選手紹介を中心に、2023-24シーズンに岩手県内で行われたラグビーの試合、岩手県のチームが県外で行った試合や、県内でのラグビーに関わる取り組みについて紹介します。

展覧会関連事業

■展示解説会

3/23、4/20、5/4
いずれも土曜、14:00~15:00

■日曜講座

4/14 13:30~14:30
講師：桜庭 吉彦氏
4/28 13:30~15:00
講師：工藤 健

(専門学芸調査員 工藤 健)

■事業報告

第12回 博物館まつり&ミュージアムコンサート

開催日：令和5年10月7日(土)・8日(日)

台風による延期や新型コロナウイルス感染症対策のため、ここ数年開催を見送っていた博物館まつりが帰ってきました。本事業は、テーマ展「早池峰山の花と森」開催期間中の令和5年10月7日・8日の2日間開催しました。7日は「岩手の音をたのしむ一日」と題し、郷土芸能公演、ミュージアムコンサートを実施し、翌8日は3歳以上小学生以下を対象とする工作体験プログラムのほか、スタンブラリー、たんけん植物園岩石園、むかしのあそびコーナーなど子供向けイベントを多数ご用意しました。また、屋外に当館の喫茶ひだまりと就労支援団体・ファーム仁王様による飲食コーナーを設けました。

7日の午前には、地元松園で活動されて

いる庄ヶ畑郷土芸能振興会様による伝統さんさを、正午ごろからは北上市滑田鬼剣舞保存会様による演舞を披露いただきました。伝統を重んじる両団体の熟練した演舞が観客を魅了します。太鼓や鐘の



滑田鬼剣舞

音が鳴り響き、心地よい時間をご提供いただきました。午後には講堂にて松園シルバーダックス様によるコンサートを実施し、テーマ展の山にちなんだ楽曲も披露いただきました。

8日は工作体験プログラム（化石のレプリカ、スライムどけい、早池峰ウォータードーム）を予約制でご用意しました。館内にはスタンブラリーで歩き回りながら、むかしのあそびコーナーで製作した玩具を楽しそうに持ち歩く子どもたちの笑い声で溢れました。



大盛況だったむかしのあそびコーナー

当事業は来年度も同時期に実施予定です。ご期待ください。

(主任専門学芸員 米田 寛)

■事業報告

博物館で学ぶ岩手の歴史講座

開催日：令和5年9月23日(土)～11月11日(土)の間の土曜日 ※10月7日(土)を除く

当館歴史部門では、毎年秋に「博物館で学ぶ岩手の歴史講座」と題した教育普及事業を実施しています。4人の学芸員のリレー講座により、古代から現代までの当県の歴史展開の特徴や魅力について概説するもので、歴史を専門的に学んだことのない方にも楽しんでいただけるような構成に努めています。

今年度は全7回（各回1時間程度）を実施し、のべ110名の方にご参加いただきました。

展示室や収蔵資料も折に触れてご紹介しながら郷土の歴史を俯瞰するという博物館ならではの形式は、参加者の皆様から大変好評をいただいています。

また、教科書的な事項の羅列に終始するだけでなく、各学芸員が日頃調べたり

考えたりした内容をタイムリーに盛り込める点も一つの魅力になっています。

一例を挙げると、古代の回では当県における平安時代の数少ない文字史料である漆紙文書（写真後掲）を素材とします。

^{えやみ}疫病（流行り病）により、胆沢城に出仕すべき兵士2名が欠員となる旨報告したもので、内容的には現代の欠勤届以上の意味を持たないかもしれませんが（当時の兵士の名前が分かるという点で稀有な資料ではありますが）、コロナ禍を経験した今では、以前とはまた違う思いでこの資料に接する方も少なくないでしょう。

このように、歴史とはその時代の潮流や人々の価値観に応じて、見出される意味も少しずつ変化しています。唯一無二の「史実」に近づくために細かな実証や

激しい議論を繰り広げるのも歴史学の醍醐味ではありますが、その時々で表情を変えながらしなやかに紡がれ続ける歴史のダイナミズムを知ることは、私たちが進むべき未来を考える上でも一定の示唆を与えてくれるものと考えています。

今年の秋にはあなたも博物館で岩手の歴史の世界にひたってみませんか。

(専門学芸員 目時 和哉)



■事業報告

第86回地質観察会「一戸町根反川周辺の珪化木をみる」

開催日：令和5年10月29日(日)

第86回地質観察会を一戸町で19名の参加をいただき実施しました。講師には、この地域の地質に詳しい杉山了三先生をお招きしました。

根反川周辺には「根反の大珪化木」をはじめ、多数の珪化木が分布しています。その特徴は「根付き」であることです。これは珪化木がそこに生育していた原地性の樹木であったことを意味します。また、この地域の珪化木は四ツ役層という約1700万年前（新生代新第三紀中新世）の地層に含まれます。主に火山性の堆積物が珪化木を覆っています。当時、森林を形成していたこの地域は、火山活動による火砕流や火山泥流の直撃を受け、地域全体が埋没したと推定できます。埋没した木々は長い時間を経て珪

化木へと変化し、今では化石林として約1700万年前の森林の様子を伝えてられています。

最初に向かったのは「根反の大珪化木」です。高さ6.2m、直径2mの非常に大きいものです。ここでは杉山先生から珪化木の樹種や周辺の地質について解説をいただきました。参加者の皆さんからは多くの質問も寄せられ熱心な様子が伺えました。その後、分布する珪化木を観察しながら根反川沿いを散策しました。珪化木を前に「すごい…」という声が聞こえてきました。

午後は、御所野縄文博物館に場所を移し、学芸員の鈴木雪野氏から縄文文化と岩石・珪化木の関わりを中心に解説をいただきました。縄文人が運んだとされる

花崗岩や珪化木で作った石器など、重機もない当時の人々がどのようにして運び、そして加工・利用してきたのか、非常に興味深いお話をいただきました。

当日は荒天に見舞われ、途中で行程の変更を余儀なくされましたが、御参加の皆様にご協力をいただき無事開催することができました。また、御所野縄文博物館の皆様にご多大な御協力を賜りました。心より感謝申し上げます。



珪化木の前に解説をきく様子

(主任専門学芸調査員 佐藤 修一郎)

■資料紹介

岩手県立博物館デジタルアーカイブから

当館には、30万点をこえる資料が収蔵されており、そのデータは非公開のデータベース上で管理されています。そのうち約1,000点は「岩手県立博物館デジタルアーカイブ」として、当館ホームページ上で公開されています。

今回はその中から、民俗部門の資料を抜粋紹介します。

【カワウソの内臓】



現在の宮古市鉾ヶ崎で廻船問屋を営んでいたお宅にあったものです。

詳細は定かではありませんが、包み紙に「カワウソの百尋（ひゃくひろ・腸のこと）」「大腸 ダイチョウ」「舌 シタ」と墨書があり、薬として保管していたものと考えられます。

【セルロイド人形】

岩手町の方からご寄贈いただいたセルロイド製のベビードールです。

人形の背には、占領下に輸出用として製作されたものであることを意味する「Made in Occupied Japan」の陰影があります。この陰影は昭和22年（1947）から5年間だけ使われたものようです。



デジタルアーカイブには他にも多くの資料が紹介されています。展示室で見た資料について再度学ぶ、未知の資料と出会うなど、自由にお楽しみください。

(専門学芸員 川向 富貴子)



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション 〈令和6年3月1日～令和6年6月30日〉

お知らせ

臨時休館のお知らせ

3月7日(木)は、臨時休館日になります。

国際博物館の日記念 入館無料の日

国際博物館の日にちなみ、5月18日(土)の入館料を無料とします。

展覧会

●特別展「ポケモン化石博物館」

期間：～令和6年3月3日(日)

会場：1階・いわて自然史展示室

○駐車場の利用制限

特別展「ポケモン化石博物館」会期中の当館駐車場の利用について、土日祝日は予約制となります。平日は、予約の必要はありません。

※常設展示室のみ観覧の場合も同様です。

○特別展の入場予約

特別展「ポケモン化石博物館」への入場は、土日祝日は予約制となります。平日は、予約の必要はありません。

○特別展の観覧料

特別展「ポケモン化石博物館」を観覧する場合は、特別入館料(一般・学生1,200円、小中高生400円、未就学児無料)となります。特別展を観覧しない(常設展示室〈特別展以外の展示〉のみを観覧する)場合は通常の入館料となります。

※岩手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様と一緒に来館された場合は、入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

○ポケモン化石博物館グッズコーナー

特別展「ポケモン化石博物館」のグッズコーナーは、特別展を観覧したお客様のみ入店できます(当日限り)。

●テーマ展「ラグビーといわて」

期間：令和6年3月23日(土)～5月19日(日)

会場：2階・特別展示室

◆展示解説会

①3月23日(土) ②4月20日(土) ③5月4日(土)

14:00～15:00 会場：特別展示室 当日受付(定員15名) 要入館料

●テーマ展「ふしぎな縄文」

期間：令和6年6月8日(土)～8月25日(日)

会場：2階 特別展示室

■県土日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

3月24日「続 雑学のススメ」(笑い頭の体操)

～中高年の皆さんと一緒に考える日本語(大丈夫ですか、その日本語)と名言(あまり知られていない心が潤う名言)

講師：高橋 廣至(館長)

* 4月14日「釜石ラグビーのこれまでとこれから(仮)」

講師：桜庭吉彦氏
(釜石シーウェイブスゼネラルマネージャー)

* 4月28日「世界の中の岩手—近代スポーツと学校」

講師：工藤 健(当館学芸員)

5月12日「岩手県内のユネスコ無形文化遺産」

講師：戸根貴之(当館学芸員)

5月26日「岩手県内の不思議な信仰(仮)」

講師：近藤良子(当館学芸員)

6月9日「平安時代の御所野遺跡とその周辺(仮)」

講師：丸山浩治(当館学芸員)

* 6月23日「可愛い・やばい・神対応の縄文土偶」

講師：金子昭彦(当館学芸課長)

* 展覧会関連講座

■国際博物館の日

●国際博物館の日記念 県博バックヤードツアー(事前申込制)

5月18日(土) 事前申込(応募者多数の場合は抽選)

国際博物館の日にちなみ、普段は見られない収蔵庫などを特別にご案内します。いずれかのコースを選んでお申込みください。(各回定員5名)

①自然コース 10:20～11:40

②歴史コース 13:20～14:40

募集期間：4月6日(土)～4月23日(火)必着

応募方法：専用メールアドレスに①参加希望コース、②住所、③参加者全員の氏名、④電話番号を明記の上、送信してください。(詳細はホームページをご覧ください。)

■週末の催し

◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13:30～15:00頃 講堂 当日受付 視聴無料

○4月6日 麦秋(実写/124分/一般向け)

○5月4日 GWこどもスペシャル(計60分/幼児～小学生向け)

①くまのプーさん プーさんとはちみつ(アニメ/30分)

②くまのプーさん プーさんと大あらし(アニメ/30分)

○6月1日 種まく旅人～華蓮のかがやき～(実写/108分/一般向け)

◆チャレンジ! はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜 小学生向け 随時受付

チャレンジ! マークをさがして はくぶつかんをたんけん!

3月 9日・10日・16日・17日 テーマ：○(まる)

4月 13日・14日・20日・21日 テーマ：動物(どうぶつ)

5月 11日・12日・18日・19日 テーマ：おしゅれ

6月 8日・9日・15日・16日 テーマ：青(あお)

◆たいけん教室～みんなのためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30 幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生10名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみよう。

※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。

※予約は専用メール(一度に3名まで)で受け付け、応募多数の場合には抽選を行います。詳細は博物館ホームページをご確認ください。

3月	10日	ヨーヨーの絵つけ	5日	猫絵馬づくり
	17日	アンモナイトの消しゴムづくり	12日	化石のレプリカ
	24日	天然石のフォトフレーム★	19日	オリジナル卵をつくろう
4月	14日	スライムであそぼう	26日	草花のそめもの
	21日	まが玉アクセサリー	2日	チャグチャグ馬コづくり
	28日	こいのぼりづくり	9日	カラフルクモづくり
			16日	アンモナイトの消しゴムづくり
			23日	まが玉アクセサリー
			30日	土偶づくり

★印は午前(10:00～11:30)と午後(13:00～14:30)の2回あります。

■利用のご案内

■開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

■入館料 一般330(150)円・大学生150(80)円・高校生以下無料

()内は20名以上の団体割引料金

※岩手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様と一緒に来館された場合は、入館料免除となります。

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第180号 令和6年3月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595
-----------------------------------	---